



総題 私たちの神

アドベンチスト聴覚しょうがい者友の会教材部

第8課 被造物への配慮 小濱 守宏 2012, 2, 18~2012, 2, 25

1. はじめに

私たちは、水や食べ物、私たちの生活に必要なものを生み出してくれている自然をどのように思っているのでしょうか？当たり前息ができるのは、酸素のおかげです。その酸素を作っているのは、木や植物でありその源は地球です。創世記の中で神様は、人間にこの地球を管理するように仕事を与えています。今週は、私たちに任されている仕事（地球の環境を守る）について考えます。

2. ロブスター解放運動 2月19日（日曜日）

世界中には、地球の環境を守る活動を行っているグループが沢山存在します。例えば、ロブスター（エビ）の命を守る活動をしているグループがいるくらいです。ロブスターは、日本でも外国でも食材として大人気です。食材として殺されるロブスターが可哀想だという人たちが集まって、ロブスター救出作戦を行ったり、助け出す方法をインターネットでも紹介しています。そのグループが信じる正義に従って、レストランから生きたロブスターを救出、第三者から見ると盗み出して、海に逃がす活動を行っているそうです。これは、地球を守る正しい方法でしょうか？

また、日本のニュースでたまにみるシーシェパード環境保護団体という名前の団体があります。このグループは、クジラは、哺乳類であり、人間と同じ分類にはいるのだから、人間がそのクジラを食べるために命を奪ってはならないという主張を持っているグループです。彼らは、2005年からは南極海での日本の調査捕鯨を妨害するようになりました。その方法は、自分の考えは正しいのだから、それに従わない捕鯨船（クジラを捕まえるために作られた船）は、沈没させてもよい。何故なら、自分たちの主張は、正しいものだから、たとえ暴力的な手段を使っても問題ないという過激な思想を持っています。まるでテロリストです。この2つのグループが行っていることが神様から任された地球を守るという方法でしょうか？断じて違います。このグループの人たちは、自分勝手に独善的です。

私たちアドベンチストは、極端な活動ではなく、神様が示す方法で地球を保護する活動を自分ができることから始めましょう。

3. 被造物への配慮に関する声明 2月20日（月曜日）

私たちの教会は、創世記2:15「主なる神は人を連れて来て、エデンの園に住ませ、人がそこを耕し、**守る**ようにされた。」という命令に従って、バランスのとれた方法で地球を大切に「守る」という事を各国の代表者が集まって決めました。

私たちを取り囲む現在の地球環境を一つの例をあげて説明すれば、自動車から出る排気ガスやクーラーや冷蔵庫などに使われたフロンガスなどの影響で、宇宙から来る悪い物質を防ぐオゾン層を破壊し、有害物質が昔よりも多く地球に降り注いでいます。生活を便利にそして、快適に過ごすために結果として、地球に悪い化学物質が発明されてしまいました。私たちアドベンチストは、人間が持つ欲に流されず、地球の資源を大切に使用せらうという気持ちをもって、生活していきます。

4. 被造物への配慮 2月21日（火曜日）

私たちは、アダムが地上で神様から与えられた仕事（地球の管理者）を引き継いでいます。私

たち人類の住みかである地球は、現在どのような状況にあるのでしょうか？調べてみましょう。まず、はじめに世界の人口を見てみると、1800年代以前は、100年かけて10億人増加してきましたが、1960年代ごろからは急激な人口の増加で、1971年の世界人口は、約40億人でしたが、2011年では、70億人の人が地球で暮らしています。人口増加のため今後、水や食料がすくなくなる可能性があります。また、70億人の人を養うために私たちの住まいである地球は、もしかすると限界に近付いているのかもしれないかもしれません。ですからなおさら私たちは、管理者の心得として、ヘブル13章5節にあるように、今持っているものに満足し、神様の守りを信じ、平安な気持ちで、欲張らない分け合う気持ちを育てていく必要があります。神様は言います。「金銭に執着しない生活をし、今持っているもので満足しなさい。神御自身、『わたしは、決してあなたから離れず、決してあなたを置き去りにはしない』と言われました。」この御言葉を信じる時に正しい管理者なるヒントをもらう事ができるのではないのでしょうか。

5. 安息日と環境 2月22日（水曜日）

私たちの内に罪が入り込み、罪のない世界から罪ある世界に変わった時に、人の心にどのような変化が起こりましたか？それは、神様から注がれている愛を感じなくなった事です。人は、自分が愛されていると感じなくなると不安な思いが湧きあがってきます。その不安を解消するために罪を持った私たちは、自分で自分を守ろうとする自己中心的な生き方になってしまうのです。

不安や心配な気持ちを解消する（なくす）ために自分の周りに物や自分を守ってくれる人を集め始めました。これが地球を破壊する動機となっています。言い換えれば、私たちの内から湧いてくる不安な思いが安心な思いに変われば、環境破壊は止まります。その大きな働きをするのが安息日です。6日の間一生懸命働き、利益を得ますが、仕事をしない日を1日設けます。安息日は、「アーそうだ、本当の安心感は、お金や物ではなくて、神様が私を愛しているから私は、安心だ」という気づきを与える日となるのです。それが、結果的に自分の欲から地球を守ることにもなるのです。

6. 人類の支配権 2月23日（木曜日）

創世記1章28節で「産めよ、増えよ、地に満ちて地を従わせよ。海の魚、空の鳥、地の上を這う生き物をすべて支配せよ。」とあります。この支配について考えて見ましょう。

罪が入る前の地球は、創世記1章30節にあるように「地の獣、空の鳥、地を這うものなど、すべて命あるものにはあらゆる青草を食べさせよう。」草食動物しか存在しませんでした。強いものが弱いものを食べて生きる弱肉強食の法則ではありませんでした。しかし、今の世界は、強いものが弱いものを虐げているのが現実です。今の基準からすると支配という言葉は、悪いイメージを抱かせます。しかし、神様が言わんとすることは、罪のなかった時代、共に草を食べていた時代のイメージで、タラント（能力）をいっぱい与えられた人間が他の被造物をお世話し、大切に愛の交わりを体験することを支配という言葉を使って、説明されたのです。そして、本当の支配者（愛し、お世話する存在）である神を覚え、賛美と礼拝するように人類にも地球の支配権を与えられたのです。

7. まとめ 2月24日（金曜日）

罪が入り込み、エデンの時代のような自然はありませんが、しかし、今でも私たちには素晴らしい住みかである地球、素晴らしい自然が与えられています。自然の法則を他の動物や植物から見ることが出来ます。自分の存在が他の存在のために役だって、奉仕している原則を見ることが出来ます。私たちも神様から頂いた仕事（地球の管理）を自分なりの方法を見つけて実践していきましょう。